宇部市立藤山中学校
3学年通信

みんなが幸せ　利他の心
みんなで誇りのもてる　学年へ

2021(令和 3)年
3月 10日　第 14 号

新たなＳＴＹＬＥを創り出した　３年生

多くの試練を受け入れ、乗り越えた１２０名

明日、旅立ちの日

去る2月25日、「卒業への思い」をテーマに学年道徳の授業がありました。

「卒業式への思い」を3年部の先生が話しました。みなさんはじっと聞き入っていました。

先生達のことばが胸に染みました。先生達が呼んでくれる名前を受け止め、3年間の感謝を込め返事したいです。

卒業式の行われる3月11日は、10年前に東日本大震災が起きた日です。授業では、震災後、１１日遅れで挙行された宮城県気仙沼市立階上中学校の避難所での卒業式（答辞）やケニアの首都ナイロビにあるキベラスラムのマゴゾスクールの子どもたちが、被害を受けた日本のために祈り、歌う様子を紹介しました。

先生達は、東日本大震災がどんな状況で、人々がどれほど壮絶な苦しみや悲しみを強いられたのか、また、復興への長い時間について、3年生全員が知るべきであると考えました。

～生徒の感想より～

色々な気持ちがこみあげてきました。例えば、「なぜ、**人間は**この自然災害に勝てないのか」「なぜ、こんなにも多くの**人命**が奪われるのか」
その中で、卒業生代表の言葉を聞いたり、日本よりも貧しい外国の人たちが日本に作ってくれた歌を聞き、涙が出そうでした。
これからはその人達の気持ちを胸に抱いて生きていきたいと思いました。

この３年間が本当に終わりなんだなと実感がわきました。**普通の日常があることの大切さをありがたく**思いました。**だからこそ、立派な卒業式にしたい。**
「**あたりまえ**」が大きく変わってしまった人がいる。卒業式の映像を見て、友達と一緒にいられるのは、あたりまえじゃないと感じました。みんなそろって卒業するのはとても**幸せ**なことと思いました。

僕は、「**利他の心**」はとてもすごいものだと感じました。家族を亡くし、大切な人、友だちを亡くし、悲しみと苦しみの感情を抱いている人へ他国から応援がある。このような映像を見てすごく**感動**しました。これから、僕も「利他の心」をもち、友達と家族と共に喜び、共に苦しみ、今後の人生を歩んでいこうと思った。

ケニアの人たちのように**想像力**をはたらかせ、色々な人のことを考えながら卒業式に臨みたい。
卒業生が読んだ文章は何度も聞いても背中がぞっとする。想像したことは、もし、自分が家族を津波でなくしたら言葉では表せないくらいの苦しみを感じる。

ケニアの人が日本の災害に共感し、歌を作り、涙を流していることにすごく感動しました。特に、目の見えない人が涙を流しながら歌っていた姿が忘れられません。

※　階上中学校の残された生徒たちは、３人のこと、そして、その家族のことを胸に刻み、「自分はどう生きるのか」を考え続けてきたそうです。
読み上げられた答辞は、どうしてよいか分からない大人にも力強いメッセージとなっていました。
答辞を読まれた方は、現在、防災関連の仕事に就いておられるそうです。

階上中学校答辞(原文)の紹介

本日は未曽有の大震災の傷も癒えないさなか，私たちのために卒業式を挙行していただき，ありがとございます。 ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。 私たちは，そのキラキラ光る日差しの中を，希望に胸を膨らませ，通い慣れたこの学 舎を，五十七名揃って巣立つはずでした。前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き，十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名付けられる 天変地異が起こるとも知らずに…。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ，内外から高く評価され，十分な訓練もしていた私たちでした。しかし，自然の猛威の前には，人間の力はあまりにも無力で，私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました天が与えた試練というには，むごすぎるものでした。つらくて，悔しくてたまりません。時計の針は１４時４６分を指したままです。

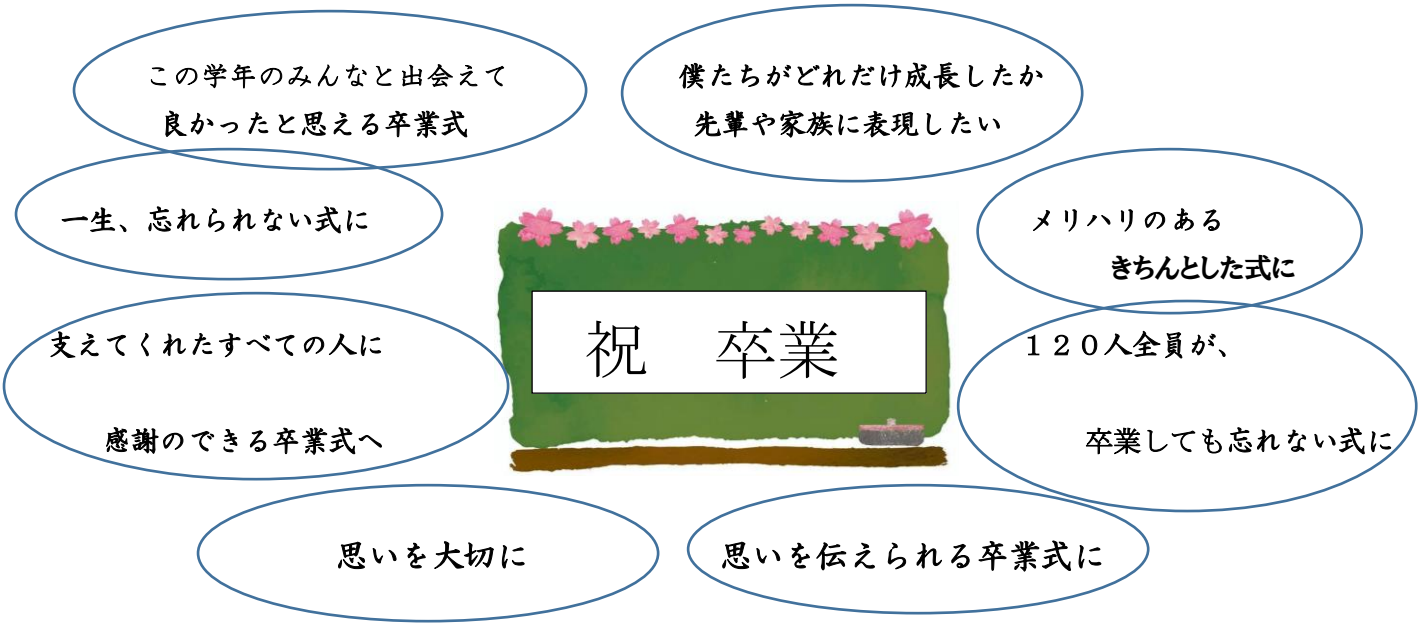
でも時は確実に流れています。生かされた者として，顔を上げ，常に思いやりの心を持ち，強く，正しく，たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。

しかし，苦境にあっても，天を恨まず，運命に耐え，助け合って生きていくことが，これからの私たちの使命です。私たちは今，それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても，何をしていようとも，この地で，仲間と共有した時を忘れず，宝物として生きていきます。後輩の皆さん，階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が，いかに貴重なものかを考え，いとおしんで過ごしてください。

お父さん，お母さん，家族の皆さん，これから私たちが歩んでいく姿を見守っていてください。必ず，よき社会人になります。私は，この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に，本当に，本当に，ありがとうございました。　　平成二十三年三月二十二日

◇ 私たちの卒業式 ◇



保護者の皆様へ

３年１組のすごいところは制限がある中でも自分たちなりに楽しみを見つけ、級友と協力しながら行事を成功させてきたところです。エネルギー溢れる生徒たちに囲まれ、日々、たくましく成長する姿に励まされました。保護者の皆様、ありがとうございました。３年１組 担任 鹿嶋麻里江

１年間、お世話になりました。２組は、人を思いやる心が満タンのクラスでした。支え合い、フォローがよく見られ、これからの生活でも発揮してほしいと思います。　　３年２組　中村祐輝

１年間、主に社会科と進路指導を担当しました。コロナ禍の中、いろいろと制限された中で３年生の生徒たちは何事にも協力し合い、アイデアをつくし、よくがんばったと思います。

学年副主任　花田　康

進級して早々に休校となり、辛い３年生のスタートなりました。しかし、生徒たちはこれまで経験したことのない逆境に臆することなく、もち前の明るさ、発想力、団結力でたくましく立ち向かい、これまでにない藤山中学校の伝統を築き、有終の美を飾ってくれました。保護者の皆様の支えがあったからこそ、こうして、卒業を迎えることができたのだと思います。ありがとうございました。

３年３組　担任　金田敦子

３年間、元気いっぱいのあいさつや笑顔をたくさんもらいました。心も体も逞しく、大きくなった姿を感慨深く思います。今後のご活躍を心から応援しています。　　村山　佐和子

４組は元気が良く、一致団結した時のパワーはすごかったです。色々な人の支えがあってここまで来れました。本当にありがとうございました。

３年４組　担任　藤井　淳

３年生の生徒達に出会い、感動、感激の瞬間に幾度も出会えました。

数学がわからないと嘆いていた生徒たちが、数学を「できないからできるに変えた」瞬間。

宿題をだせば私の耳元に聞こえるほど悲鳴をあげていた生徒たちが、数学の発展プリントをくださいと言うようになりました。「数学を苦手から得意に変えた」瞬間。

コロナ禍で、願望を打ち消されても知恵とアイデアを結集し、「失望を成功に変えた」瞬間。

口数は少ないけれど、心の奥底の気持ちは熱く、黙々と努力し、「不安を自信に変えた」瞬間。

日々、刻まれた生徒達の努力の姿が今もなお心に残ります。

子ども達１２０名の可能性を信じ続け、関わりました。

最後は、生徒達から学びました。「可能性を広げていくことや創造力のすばらしさ」を。

新しい生活を求められ、急速に社会が変わる中で、１２０名が卒業を無事迎えられますことは、何より家庭の教育力や学校への深いご理解とご協力の賜と厚く感謝申し上げます。

学年主任　中谷靖枝

いよいよ明日が卒業式となります。私たち教員にとって、3年生との別れはつらく寂しいですが、3年生が最後に創り上げる卒業式が、それぞれの未来につながるようにと3年部教員一同願っています。お子様のますますの活躍を祈念しております。1年間たいへんありがとうございました。　　3年部一同